

改めて弥栄の郷をご理解ください。

以前、ご家族様へ弥栄の郷を支えていただける方（働いていただける方）のチラシをお送りさせていただきましたが、その後、関係者含め、数名の方との出会いをいただき、現時点では少しばかりではありますが安定した状況となっております。（皆様の不安を煽るような状況をお見せしてしまいすみませんでした。）

各種メディアで発信されているように、介護の世界に留まらず、人手不足はどの業界にも共通した話題であり、厳しい状況下にあります。2025年問題（後期高齢者が最も多くなる年）が目の今、全国的に介護職員が不足しており、将来的に国が想定している介護職員の数にも達していない現状もあり、この先の日本の介護そのものが危ぶまれております。

そのような状況もあり、介護職員の処遇を改善すべく数年前に加算の制度が設けられました。全産業の中で比較的低い賃金とされている私たちの世界に対するモチベーションアップとでも言いましょうか、賃金アップは勿論のことながら、情報通信技術を取り入れる事による介護職員の負担減、それらに伴う離職率の低下防止などが大きな目的であると捉えております。これまでも処遇改善の制度はあったものの、加算の一部を除き介護職員に特化したものとなっており、その他の職種には配分出来ないものと規定されており不公平感が生じていたことも事実です。6月より新設される加算については、介護職員以外の職種にも分配可能な制度となっており、その他職種の職員のやる気を削がない対応が可能となるのではないかと希望的観測を持っているところであります。（但し、加算算定＝利用料値上げです）

これからの施設運営は、「より多くの加算を取得する事により、入居者の方々の生活の質を向上させると同時に収入を上げ、職員の負担を軽減する事により、より安定した介護サービスを提供する」という事がキーワードになると思われます。

言い方を変えると、「多くの加算を取得していない事業所は努力が足りず、向上心がない施設であり、サービスの質が低い」という理解になるのだと思います。理念を大切に、かつ、これらの取り組みをしていかなければレベルの低い介護施設となってしまいますので、弥栄の郷として、色々と考えていかなければならないと感じております。

弥栄の郷は個性あふれる職員で構成されております。（赤木自身も含めですが・・・）

介護職員へのなり手が減少している今、外国人雇用に取り組んでいる事業所は、年々増加傾向にあります。円安の日本で働くより、欧米などで働く方が報酬も高く、同じ介護の仕事をするなら日本以外で・・・と考える外国人も居ると耳にします。（そういった日本人もいるでしょう）

因みに・・・

人手が足りないからといって、来るもの拒まず職員を採用している施設も実際にあると聞いておりますが、弥栄の郷ではそういった採用は一切致しません！（外見に囚われず、介護に対する思いを重視しています。）私自身、数十年前の髪の毛が多かった頃・・・は、諸先輩方に染めた髪の毛の色や、服装を注意されていた時代もありましたが、多様性を認め合うこの時代には適していないと考えております。

今後、ご面会にいらした際に、色々な職員を目にする事があると思いますが、上記内容をご理解いただきお付き合いいただければ幸いです。

今後、お気付きの点がございましたら、遠慮なくご意見を頂戴したく存じますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。